令和２年度（2020 年度） 第２回横須賀市政策評価委員会会議　会議概要

■日　時　　令和２年（2020 年）８月 12 日（水）10 時 30 分～12 時 25 分

■場　所　　市役所本館３号館３階　301 会議室

■出席者　　【委員】
田丸委員長、牧瀬委員長職務代理者、
安部委員、有吉委員、石垣委員、一條委員、川名委員、工藤委員、小林委員、
馬場委員、松尾委員、宮﨑委員（50 音順）
（欠席：窪田委員、櫻井委員）

【事務局】
平澤経営企画部長、宮川都市戦略課長、佐野主査、太田主査、小圷

■傍聴者　　なし

■資　料
- 資料１　　横須賀市民アンケート報告書
- 資料２－３　　重点施策：柱２ 地域で支え合う福祉のまちの再興
- 資料２－４　　重点施策：柱３ 子育て・教育環境の再興（整備・充実）
- 資料３　　地方創生関係交付金等事業の進捗状況（2019 年度）

■議事内容
１．横須賀再興プラン（横須賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略）について
（１） 柱２　地域で支え合う福祉のまちの再興
（２） 柱３　子育て・教育環境の再興（整備・充実）

２．地方創生関係交付金等事業の進捗状況について

概　　要

10時30分　開　会

１　議事

（１）柱２　地域で支え合う福祉のまちの再興

○有吉委員

・　市民アンケートの報告書40ページの「人との交流、地域とのつながりについて」ですが、普段、地域の人と話をしない人が23％いるという結果ですが、非常に少ないと感じました。他都市との比較データはありますか。

○事務局（宮川）

・　他都市との比較データは持ち合わせておりません。

○有吉委員

・　市長が「誰も一人にさせないまち」の実現とおっしゃっている中で、私は、横須賀の地域の声掛けは進んでいるという印象を受けます。調査のやりようがあるのであれば、このことが数字として、他都市と比較できるものがあるといいと思います。市民も報道する側も、厳密な数値が欲しいというよりは、傾向が分かるようなものでも構わないので、あるといいと思います。

○川名委員

・　実家の母は、90歳で持病がありますが、民生委員さんにお世話になりながら、横浜で一人暮らしをしています。その民生委員さんによると、皆さん、特に高齢の男性の方は、あまり話をしたがらず、民生委員さんが訪問しても、来なくていいと言われるケースが結構あるそうです。母の世話のために実家に戻ると、やはり近所の高齢者の方々は、あまりお話をなさらないと感じています。

○小林委員

・　横浜市や他の都市でもアンケートを行っていると思います。アンケートデータをもらって、同じような設問を設けることで、地域で比較することはできるのでしょうか。

○事務局（宮川）

・　他都市がおこなっているアンケートで公表されているものもありますので、次回アンケートの際、参考にはできると思います。ただ、それが我々に必要な設問かどうかということもあるので、しっかり検討した上で設問設計することが大切だと思っています。他都市との連携の枠組みもありますので、その中で合意が得られれば、同じような設問のアンケート実施という可能性もあります。

○石垣委員

・　地域のつながりについてです。私は、今マンションに住んでおり、「マンションの中であいさつをしましょう」といった取り組みをしています。一戸建てのような濃いつながりが

ない中で、ひと声かけるだけでも、人との関わりにつながっていくと思います。声掛けによる見守りというわけではありませんが、あいさつから始まって、「体調はいかがですか」と会話が進んだり、高齢者の中で、スポーツのグループづくりに発展したり、声掛けといった小さなことから、人とのつながりが広がることもあります。

・ また、私が住んでいる地域では、町内会館を9時から17時まで開放していて、いつでも、誰でも入ることができます。最初は、みんな躊躇していたのですが、平日を中心に、徐々にお友達同士が集まれる場所として利用されてきています。特に最近は、コロナ禍で、近場で買い物にでかけるぐらいしかない状況なので、「買い物のついでに寄って行きましょう」と気軽に活用されるようになってきています。
・ 私の周りは、シニア世代といっても、割と元気な方が多く、何気ない会話から「ボランティアとか、何かしたいと思っているけれど、どうしたらいいのかわからない。市役所に相談してみましょう」といった話に進んでいくこともあります。
・ シニア世代の中には、経験に基づく、いろんな知識やノウハウをもった人もたくさんいます。そういった方々に、地域の役割を担ってもらったり、地域のいろいろな場面で活躍してもらったりするといいと思います。例えば、地域運営協議会や、小学校での活動など、うまく元気な高齢者を地域活動につないで活用できたらいいと思います。
・ 地域には、いろいろなことに参加・協力している元気な高齢者がいることを、若い世代の方々に知ってもらって、「私もリタイヤしたら、何かやろうかしら」というように、次の世代につながっていくといいと思います。自治会や町内会の運営が厳しくなっている状況の中で、若い世代の方々に継承していけるような地域の場づくりができたらいいと思います。

○事務局（宮川）

・ 市としても、町内会活動などの地域の場づくりの必要性は感じています。市民アンケートの結果からも地域の活動に参加している割合より、参加していない割合のほうが高い状況です。現状の活動を支えるために、参加しやすい環境を整えていくのは、これからの課題の一つです。市としては、横須賀の各地域で行われている支えあい活動で、上手くいった仕組みや、やり方を、他の地域でもできるような支援をしたり、活動を支えるための費用を増やしたりすることで、支援しているところです。
・ また、小学校を中心とした地域での支え合いについては、スクールコミュニティの活動を昨年からモデル事業で始めています。このような取り組みを増やしていくことで、地域での支え合いの強化を図っているところです。

○松尾委員

・ 「小学校を拠点とした地域コミュニティの強化」についてですが、令和元年度はどこの小学校がおこなったのでしょうか。また、具体的にどんなことを行ったのか教えて下さい。

○事務局（佐野）

・ 最初のモデル校は、汐入小学校です。地元の方、特に高齢者の方に協力していただき、放課後に学校に集まって、竹とんぼをつくったり紙風船やかるたで遊んだり、いわゆる昔遊びを中心に一緒に楽しんでいます。高齢者は、子どもと一緒に活動することで刺激を受けたり、子どもたちは、普段遊んだことのないような遊びができたり、スクールコミュニティの場を使って、地域の世代間交流がはぐくまれつつあります。この仕組みを他の小学校に増やしていきながら、広げていくことを考えています。

○松尾委員

・　小学校に限らず、中学校も含めてですが、学校の敷地内の片隅に、地域団体の機材を収納させていただくための物置を設置させていただいているケースがあります。新たに「地域や町内で使われているもの」や「地域の子どもたちが使っているもの」を置かせてもらいたいと相談すると、断られるか、最初は物置の設置を認めてくれても、校長先生が変わると学校としての考え方も変わり、撤収を余儀なくされるといったことがあるようです。

・　自分もプライベートで、地域活動をしていますが、学校にものを置くことをあるときまでは認められて、あるタイミングでダメと言われて撤収した経験があります。それがきっかけで、学校のいろいろな行事に、地域の団体として協力していたようなこともなくなってしまい、学校から足が遠のき、学校との距離ができてしまうのではと、寂しさを感じたことがあります。

・　もし、学校を拠点にコミュニティづくりを考えていくのであれば、地域や町内で使っている道具や、地域の少年野球や少年サッカーのクラブチームの道具といったような、学校以外の場面で子どもたちが使うような道具を置くことを認めてほしいと思います。もちろん、ルールは必要だと思いますが、「ルールを守ればよし」という流れになれば、もっと地域の人たちが学校に集まる機会が増え、学校を拠点とした地域のつながりもできるのではないかと思います。

○安部委員

・　私の住んでいる地域のことです。坂があるので、一人暮らしの高齢者が買い物に行くと、買い物袋をもって、その坂を上らなくてはならないので大変です。それで、私が、坂の下から、買い物袋を運ぶのを手伝うことがあります。地域の人たちの買い物を楽にするために、何かできないかとさいか屋の移動販売にお願いし、何回か来てもらいました。そのときは、非常にみんな喜んでいたのですが、さいか屋としても、このまま継続するのは、財政的に難しいとの判断で取り止めになりました。市からの補助金などがあれば、なんとか続けられる可能性も見えてくるかと思うので、買い物難民に対して、なんらかの対策をしていただけないかなと思っています。

○事務局（宮川）

・　徳島県に本社がある移動スーパーの「とくし丸」と提携した市内の事業者もあるようで、「すごく助かっている」といった話も聞いています。また、久里浜の商店街でも、独自のサービスをしていると聞いています。間接的な支援になりますが、市でも「商店街にぎわいづくり事業補助金」を設けており、「商店街地域連携共同事業」といった商店街が町内会等地域と連携し、共同で地域のニーズに対応する事業に対して経費の一部を補助する仕組みがあります。

○川名委員

・　久里浜商店街の宅配サービスは、赤字だそうです。本来であれば、そういうサービスをやってくれる商店街で、市民がお買い物をして、十分な利益が出るような形にもっていく。その利益の中で、宅配サービスのようなサービスが展開できるようになるのがいいと思います。自分の利ばかりではなくて、商店街全体の盛り上げが、そのサービスの充実につながるといった啓発もできるといいと思います。

・　シニア世代でも元気な人がいるといったことに関係しています。シニア世代を大きく分け

ると、積極的に活動するグループと、人と関わることに消極的なグループ、そして、大多数であろう活動したいけど、どう動いていいのかわからないグループに分けられるのではないかと思います。この大多数の人たちを、どうつなぐのかといったところが問題だと思います。日本人は、言われたことはやるけれど、自分から率先してはやらない傾向があるように思います。京急の車内放送で、「困ったことがあったらお互い助け合ってください」といったような働きかけは、非常に有効だと思っています。市内でも、「元気な人が困っている人を助けてあげてください」といった啓発活動があってもいいのではないかと思います。

・ フレイル予防や終活など、市でも対策を講じているようですが、市民に情報が行き渡らないことに、苦慮されているのではないかと思います。ご高齢の方は、あまりインターネットをご覧にならない人が多くて、スーパーの掲示板などから情報を得ている人が多いと感じています。そういったところに、市からの情報やメッセージがあるといいと思います。

○小林委員

・ 小学校を拠点とした地域コミュニティの強化で、モデル校が１校から３校に拡充とありますが、上手くいけば、最終的に全校で実施する予定ですか。

○事務局（宮川）

・ 全校に広げることをイメージしてモデル事業として行っているので、順調にいくようでしたら、将来的には全校に広げたいという思いはあります。

○小林委員

・ ランドセル置き場や、みんなの家といった施設は、地域に偏りがあるように感じていて、ないところはないままの状態が続いていると感じています。できるだけ、地域格差のないように平準化していただきたいと思います。

○有吉委員

・ 汐入小学校のコミュニティは、取材でイベントを拝見していますが、非常にいい取組みで上手くいっていると感じています。上手くいっている理由としては、元市議会議員らや地域活動をやっているような人が軸になり、しっかり地域にコミットして、献身的にかかわっているという背景があると思います。そう考えると、全市的にこれを展開していくのは、難しいのではないかと思います。100万円ぐらい予算がついていると思いますが、活動自体は、全くの手弁当ですよね。ボランティアの方々に手当が出ているといったことではないですよね。

○事務局（宮川）

・ 学校の改修費用などに対する予算になります。

○有吉委員

・ 有償ボランティアという言葉もありますが、全市的にやっていくのであれば、善意に頼るのではなく、最低限の実費の弁償といったことも考えていったほうがいいと思います。賛否あるかと思いますが、地域の方々のご意見も聞きながら、いい方法を考えていただきたいと思います。
・ 安部さんの意見に関連するのですが、キッチンカーというのがありますよね。今、キッチ

ンカーはイベントがなくなって仕事が激減していると言われています。キッチンカーを横須賀市内に誘致して、谷戸のような地域に駐車スペースを準備してあげる。地域の人に声がけをして、利用を促すといったことができれば、普段なかなか出歩けないような人も、普段と違うものが食べられるし、キッチンカーで今仕事がないような人は、平日に少し収入が得られる。両方にとってwin-winだと思うので、そういったことを考えてもいいと思います。

○工藤委員

- 商店街の配達サービスは浦賀もやっていましたが、結局立ちゆかなくなってしまったようです。商店街の善意で、ボランティアでやるという仕組みだと、実際にやると赤字になってしまう。ちゃんと経営計画を立てた上で、ビジネスとして成り立つようにしてあげないと、今の商店街の配達の仕組みでは成り立たないと思います。ただ、自分たちでビジネスプランを立てるのは難しいと思うので、全国の成功事例等を、商店街の方に伝えてあげることが必要です。これは、商店街の再生という部分にもつながると思います。
- 追浜地域で、「ハマちゃんバス」が運行しています。路線バスが走らない高台に住んでいる方々の、交通不便を解消する目的で始まった取り組みです。取り組みを進める中で、バス路線のような形で運行させるには、お金をとらなくてはならないといった規制があることも分かりました。そういった規制緩和といった部分を一緒に考えてあげると事業が上手くいくのではないかと思います。
- 市民アンケートの結果によると、地域活動やボランティア活動などに参加している人は少ない。そういった活動の及ばないところを支えているのが、民生委員さんやヘルパーさんだと思いますが、その数も十分ではなく、減っているのが現状かと思います。民生委員さんやヘルパーさんのような支える人たちが減少していくのは、経済面の問題や業務の負担などいろいろな理由が考えられます。次世代の支える人たちを育てていくといった部分は、行政でないとできないと思います。定年までサラリーマンをやっていた人たちが、退職後にいきなり地域デビューは無理な話です。定年前の50代くらいの人たちを、地域活動などに巻き込んでいくというのは、民間ではできないと思うので、行政できっちり考えていただきたいと思います。
- 横須賀らしさを生かした地域コミュニティの活性化とありますが、それぞれの課が、バラバラといろんなことをやっているように見えてしまいます。大前提として、テーマは何か、課題は何か、何をやらなくてはならないのか、といったことを共通認識する必要があると思います。共通認識したのち、各課の事業に落としていくといった形にしないと、いつまでたっても、この課ではこれをやって、あの課ではあれをやって、と施策としてバラバラ感が否めないのかなと思います。

○事務局（宮川）

- 市の実施計画は、分野ごとに柱を立て、柱の方向性のもと、最重点施策を事業として行うといった体系をとっています。しかしながら、部や課といった組織の壁のようなものは、取り払いきれていないと感じてはおり、課題だと認識しています。

（２）柱３　子育て・教育環境の再興（整備・充実）

○川名委員

- 数値目標の「教科指導内容の定着状況」ですが、中学生のところに英語の数値がないのは

なぜでしょうか。横須賀は、小学校からネイティブALTを配置するといった取り組みを行っているので、中学１年生のときは、他の地域よりも英語の成績がいいのではないかと。それで数値があればと思いました。

・ 私は、幼児向け英語から受験英語まで、自宅で教えています。その中で思うのが、英語力には、国語力が非常に大事で、設問を読み解く読解力が必要だと感じています。読解力をはぐくむために、小学校の頃から、朝の10分間本を読みましょうというような取り組みがあるといいと思います。

○事務局（宮川）

・ 英語の「全国学力・学習状況調査」の数字については、横須賀再興プランで「英語によるコミュニケーション能力の習得状況」の部分に載せています。全国習得状況を100としたとき、本市の直近の習得状況は104.3となっており、全国を上回っています。

○小林委員

・ 数値目標「横須賀市に住み続けたい」と思う人の割合の実績値ですが、2019年は参考値とはいえ下がっているのはなぜでしょうか。

○事務局（宮川）

・ 今回のアンケートでは、前回のアンケートの選択肢になかった「一度は市外に出たいが、いずれは戻ってきたい」「どちらとも言えない」の２つを増やしました。選択肢をより細かく設定することで、市民感情に近いところに回答が割れたという結果です。

○小林委員

・ 「横須賀の特性を生かした教育機会の提供」についてですが、スポーツ関係が多いように感じます。国際交流の要素が入っていないのは、どういった理由からでしょうか。

○事務局（佐野）

・ 国際交流の要素は、「国際コミュニケーション能力の育成」という部分にあります。小学校に外国人の先生を派遣して生の英語に触れあうような機会をつくったり、市立中学校３年生のうち希望者全員を対象に英検３級の検定料を全額助成したりという取り組みで、英語に触れあう機会の提供をしています。

○宮﨑委員

・ 今年度の新規事業として、妊娠や不妊などのＬＩＮＥ相談（モデル事業）の実施とあるのですが、横須賀市では、これ以外の分野で、ＬＩＮＥ相談をやっていますか。また、国庫支出金などを活用して、今回モデル事業として始まったということでしょうか。

○事務局（平澤）

・ この事業は、民間企業と共同で始まったもので、民間企業からもノウハウや人材と投入してもらい、共同で始まったものなので、国庫等は利用していません。

○宮﨑委員

・ 県でも、数年前から、ＬＩＮＥ相談を幅広の分野で始めています。最初は文科省からの補助金があったので、いじめの相談から始めました。そのあとに、ひきこもり対策の支援

や、ひとり親家庭支援、ＤＶ関係の相談など、幅を広げて数年やっています。始めたときは、どれぐらいＬＩＮＥ相談があるのかがわからなくて、手探りで始めたところがありました。家にいて電話で相談するにしても、話し声が聞こえてしまうといったことがあるので、誰にも知られずに、家族にも知られずに10分20分長時間話すというのが難しいこともあり、特に若い人にとっては、電話で相談するよりＬＩＮＥのほうが、かなり気軽に相談でき、思った以上にいろいろな意見をいただきました。

・ 一方で、行政の側からみると、ＬＩＮＥでの相談体制ができたからといって、既存の窓口での相談や電話での相談をやめるわけにもいかず、経費的には倍かかってしまうこともあり、今後、県としても考えていかなくてはならないと思っています。
・ ただ、ＬＩＮＥでの相談は課題もあります。相対の相談や電話相談だと、声のトーンや表情から、複合的な判断ができますが、ＬＩＮＥはあくまでも、文字でのやりとりなので、複合的に判断することが難しく、なりすましといった問題もあります。ただ、ＬＩＮＥは、若い人に刺さる、有用性のあるツールなのかなと思っています。

○工藤委員

・ 子育て・教育環境の再興とあるのですが、近年、出産・子育て環境の充実ということで、保育の無償化に取り組んできたり、中学校全校でキャリア教育に取り組んでいたり、市の総合高校での取り組み等を見ていると、横須賀市の子育て教育環境というのは、近年非常に充実してきているというのが正直な感想です。ただ、他都市からみると横須賀の教育環境は、まだ脆弱だとみられることがあります。子どもの数や予算など、他都市と単純比較できない部分があるので、肝心なのは、横須賀市でやっていることを、しっかりと市内外に情報発信し、正しく評価をもらう流れを作ることが重要だと思います。

○馬場委員

・ ＧＩＧＡスクール構想のＩＣＴ活用教育の推進という部分で、校内ＬＡＮのネットワーク更新があげられているのですが、ネットワーク環境の充実のみならずＰＣ端末の数の整備も行うべきなのではないかと思います。
・ e-sportsの関係で、ハイスペックＰＣを市内の高等学校等に３年間無償貸出を実施しているようですが、台数が需要に追いついていないという感じを受けます。もう少し考慮が必要ではないかと思います。

○事務局（宮川）

・ ＰＣの数の整備については、この当初予算ではなく、補正した予算でお金を確保しています。ＰＣ導入から活用に至るまでの過程は、学校の教員にとっても負担になることが多いので、ＰＣ調達及び導入のための専門支援員を配置する費用も確保しています。

○松尾委員

・ プライベートで、教育委員会が小学校区ごとに設置している体育振興会の役員をしています。体育振興会と名前がついていますが、主な活動は、町内の運動会を催すといった、どちらかというと運動促進というよりは、地域の交流促進がメインとなっているような感じです。ただ、体育振興会という以上は、もう少し、スポーツや競技に力をいれて、子どもたちの体力低下を底上げするようなことができないかと議論になることがあります。せっかく、小学校区ごとに体育振興会といった仕組みがあるので、そういう所に体力向上の推進や運動能力の測定といった役割を担ってもらってもいいと思います。

・　小学校を拠点とした地域コミュニティの強化といったところに関係して、部活動指導員の配置とありますが、地域には、体育系の団体もたくさんありますので、そういった団体の人たちを学校行事などに引っ張り込むようなことができれば、さらに地域の連携も深まるのではないかと思います。
・　昭和40年ぐらいに、横浜の栄区の、駅からバスを利用するような立地に、上郷ネオポリスという、7～800世帯が住むような住宅地が開発されました。開発から数十年経つと、老朽化や高齢化が進み、住宅地の中にあったお店は潰れて行き、住んでいた人の多くも引っ越しをして空き家がたくさんでき、一時ゴーストタウンのようになったそうです。その状態をなんとかしようと立ち上がった地元の人たちと、開発販売事業者だった大和ハウスさん、区役所や大学とも協力して、新しい街づくりをしているようです。住宅地にお店がないならお店をつくる、働く場所がないなら、住宅地の中のお店で雇用して働いてもらう、集う場所がないというならコミュニティスペースをつくる、相談できる場所がないなら相談できるような機会や場所をつくる、といったように、困りごとや課題、必要なことをリストアップして、一つ一つ解決しているようです。横須賀も、地域単位で困りごとをリスト化して、何が必要かを丁寧に見ていくと、地域に寄り添ったサポートができ、地域活性化にもつながると思います。

〇安部委員
・　体育振興会の話がありましたが、地域の子どもたちの多くは、野球チームやサッカー、バスケットなどそういったクラブ活動に参加しています。子どもたちは、クラブの練習が優先され、町内のお祭りや運動会という地域行事には参加できない。親もクラブ活動について行ってしまうので、親も参加できない。それが、非常に歯がゆい状況です。せめて、地域の行事には出てほしいと思いますが、どうしたらいいか悩んでいます。

〇小林委員
・　私が住んでいる町内会は、高齢の方が多いせいか、子ども会もなくて、地域と関わる機会が少ないです。私の子どもは、クラブには加入していないので、体育振興会のイベントなどがあると、スポットで参加できるイベントは少ないので、逆にありがたいと思います。
・　お祭りのお稽古とか、昔から住んでいる人には、声がかかるけれど、新しく住み始めた人には声がかからない雰囲気もあると感じています。地域に関わりたいと思っても、見えないハードルがあってモヤモヤしています。

〇川名委員
・　地域の抱える問題は、現代のトレンドだと思います。お住まいの近くに子育てサークルがあるのに、わざわざ遠くのサークルに参加する人たちが結構いらっしゃいます。これからの地域の活動は、それぞれの町内会や自治会の所属の枠を超えた仕組みになっていくのではないかと思います。
・　町内会の第一の役割は防災で、何かあったときに、近所の人が無事かどうかを確認したり、支援物資が届けられたり、スムーズに支援が行き渡るための大切な仕組みです。一方で、町内会の枠を超えた活動もできるといいと思います。東京のお祭りで、お神輿の担ぎ手がいないので、わざわざ千葉から助っ人を頼むという時代です。横須賀もインター町内会というか、近くに住んでいる人だけが参加できるのではなく、遠くの人も参加ができるような仕組みにしていったら地域活性化につながるのではないかと思いました。

（３）地方創生関係交付金等事業の進捗状況について

○馬場委員

・　ルートミュージアム構築によるにぎわい創出事業について、東京湾側だけではなく対象を西海岸地域にも広範囲に広げ、VRコンテンツの有効活用を継続していくといいと思います。
・　三浦半島魅力最大化プロジェクト推進事業について、三浦半島全体でのベクトルを合わせた取り組みが拡大につながるため４市１町での連携が重要であると考えます。インバウンド対策は、環境面より考えると今後２年以上は劇的に増加するとは予測できず、アジア各国からの受け入れ環境整備を進めつつ国内誘客の施策を注力し推進したいところです。
・　住むまち横須賀魅力体験・発信事業については、横須賀のプロモーションが非常に重要でありドローン、ＶＲを有効活用したいわゆるバエ（映）る紹介が必要であると感じます。
・　ドローン産業集積推進事業について、企業版ふるさと納税の打ち出し方は、企業側のメリットのプロモーション設計が重要であるので、ポータルサイトへの登録など推進していただきたいと思います。その他、企業版ふるさと納税事業についてはいくつか取り組んでもよいのではないかと思います。

○石垣委員

・　ルートミュージアム構築によるにぎわい創出事業についてです。島根県の石見銀山に世界遺産登録の年に訪れた際のことですが、そこここでボランティアガイドや住民の方々が笑顔で迎えてくださり、積極的に声掛けをされていました。街全体で観光客に楽しんでもらおうという心を、おもてなしの心を感じ、温かな気持ちになったことが良い思い出として残っています。
・　今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で多くのイベントが中止になったり、１人１人が行動を自粛したりするなどで暗い気持ちにもなる中、ガイダンスセンターの整備は、久々の明るい話題で嬉しいです。やはり、新しい施設がオープンすることは市民にとっても希望であり、とても喜ばしいことです。そのため、接客の方（ボランティアガイド、商店、タクシー運転手の方々他）に任せるだけでなく、私たち市民も、市をあげて笑顔でのお迎えを、積極的に声をかけ、観光客の皆様に横須賀市民の心意気を、おもてなしの心を感じて、「横須賀に来て良かった」「温かい気持ちになった」「また来たい」と思っていただくことを願っています。

○川名委員

・　ルートミュージアム構想によるにぎわい創出事業についてです。VRコンテンツをYouTubeにして発信し、広く多くの人に見てもらえるといいと思います。石川県七尾市七尾城のVRをYouTubeで見たことがあります。七尾市への興味がわきました。ルートミュージアムのVRの内容を江戸時代の横須賀の様子などがわかるもの、ストーリー性があるものだとさらに多くの人の興味と、地元の歴史勉強にも使えそうです。このVRを、ワールドカップ　ウィンドサーフィンの時、競技の合間の大画面で流したり、フェイスブックなどSNSで流せたりするといいと思います。また、作ったときだけでなく、長い期間、町中でも目にふれるようなしかけがあるといいと思います。今後、インバウンドがすぐに回復しない状況を考えると、在日外国人をターゲットにした観光誘致に切り替えるのもいいかもしれません。在日外国人へアピールするとしたら、欧米人を特に対象とするとよいと思います。イ

ンバウンドのアジア人、特にインバウンドの多くの割合を占める中国、韓国、台湾、香港の人々は、日本の歴史、伝統にはあまり興味がありません。（2018年のデータですが、興味の占める割合は、20％くらい、中国、香港は10％代）欧米は50％以上です（スペインに至っては70％代）。在日の外国人は、ゴールデンルートの日本はすでに観光済みの場合があるので、自国とつながりのある場所を訪問する可能性があります。そのためには、横須賀の地域で、各外国とのつながりをクローズアップした紹介があるといいと思います。たとえば、三浦按針とイギリス、浦賀ドックとオランダ（咸臨丸はオランダで造船されたことから）、観音崎灯台とフランス。もちろんペリー公園、久里浜とアメリカ（軍属以外の多くのアメリカ人はペリーを知りません。むしろペリーの兄が独立戦争の時に活躍したので兄のほうが有名です）。

・ 訪日外国人アクセス環境向上事業についてです。米海軍横須賀基地の軍属家族が出かける際は、車が多く駐車場の情報があると喜ばれると思います。出かける先は、「海」「燈明堂」「城ケ島」「観音崎」が特に人気です。またイチゴ狩り、ミカン狩りは自国ではできないことなので、人気です。もし、バスなど公共交通機関を使うことを奨励する場合は、ピクトグラムなどや、行先をローマ字で書かれたボードをバスに貼るなど、分かりやすい案内があると便利だと思います。また、軍属なので、ボーイスカウトの活動が盛んです。イベントのためのキャンプの場所を招聘すると、その情報がアメリカ中にまた日本の他の軍属のボーイスカウトにも伝わり広報活動になると思います。また、軍属の奥様方に人気のものは、”花“とくに藤の花が人気なので、横須賀の”はなごよみ“をその時期ごとに紹介すると足を運んでもらえると思います。食べ物での人気はラーメンです。沢山の人から、ラーメンやさんのおすすめのお店を聞かれます。横浜のラーメン博物館、カップヌードルミュージアムは行かない人はいないほどの人気です。

16 時 35 分　閉会

予定していた議事がすべて終了したため、閉会となった。

（以上）